

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会主催
第11回医学系キャリア支援のための交流会
開催報告および参加者アンケート集計結果

I. 企画の概要

1. 目的：大学院医学系研究科・医学部、および、医学を志す教養学部生・高校生などにおいて、
①医師・研究者・学生のキャリア形成に対する意識を高める。
②様々なライフイベントを経験しながら前向きにキャリアを切り開く生き方への理解を深める。
2. 日時：2023年6月22日（木） 16:50～18:00 （第一部：現地+オンラインのハイブリッド形式）
18:00～19:00 （第二部：現地のみ）
3. 会場：東京大学医・総合中央館（図書館）333会議室およびオンライン（Zoom）
4. 対象：・医学部（附属病院を含む）の学生・教職員
・大学院医学系研究科の大学院生・教職員
・医学に関心のある教養学部学生・高校生など（いずれも男女不問）
※ 他機関からの参加可。
5. 申込方法：事前申込制。
現地参加定員 110名
オンライン参加定員 先着500名まで登録可。
6. 内容：
司会・進行：細谷紀子、本田郁子
＜第一部＞
16:50 開会挨拶
（南学正臣 医学系研究科長・医学部長、田中栄 医学部附属病院長）
16:55 講演
岡本 耕 先生（東京大学医学部附属病院感染症内科 特任講師）
No challenge no life：ワークライフバランスと学び続けること
17:40 質疑応答・全体討論
17:58 第一部縮めの挨拶 吉川 雅英 男女共同参画委員会委員長
＜第二部＞
18:00～19:00（現地のみ） 自由歓談・情報交換
7. 企画・運営：
東京大学大学院医学系研究科・医学部男女共同参画委員会
第11回医学系キャリア支援のための交流会 実行委員会
（幹事）細谷紀子・本田郁子
（委員）庄田宏文・菅谷佑樹・田村純人・野村幸世・春名めぐみ
M4：東野雅潔・三武さわ
M3：伊藤遙・鎌田康生・渡壁健太
M2：折井森音・南佳里
M1：神作優尊・水田真美
C2：鈴木慎

II. 開催報告

1. 参加申込者数と属性

【全体】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
招待講師)岡本耕先生	1		1	
東大) 教員	16	8	24	16
東大) ポストク・病院診療医	1	2	3	2
東大) 大学院生	2	4	6	4
東大) 研修医	2	0	2	1
東大) 学部学生(医学部+教養学部理科三類)	27	21	48	31
東大) その他(技術職員・事務など)	4	2	5	3
学外) 高校生	24	19	43	28
学外) その他	3	18	21	14
合計	80	74	154	100

【高校生の所属の内訳】

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
日比谷(東京都)	14	1	15	35
東海(愛知県)	0	7	7	16
西(東京都)	4	1	5	12
豊島岡女子(東京都)	3	2	5	12
渋谷教育学園渋谷(東京都)	3	2	5	12
東洋(東京都)	0	2	2	5
白梅学園(東京都)	0	2	2	5
三田国際学園(東京都)	0	1	1	2
晃華学園(東京都)	0	1	1	2
合計	24	19	43	100

<性別の内訳>

	現地参加	オンライン参加	計	(%)
男性	43	38	81	53
女性	35	34	69	45
回答しない	2	2	4	3
計	80	74	154	100

2. 当日参加者数

現地参加者 66名 (会場受付で確認)

オンライン参加者 44名 (Zoomの接続記録より)

計 110名

3. 会の概要

「医学系キャリア支援のための交流会」は、2012年以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて1年延期とした2020年を除き、毎年6月の男女共同参画週間の時期に開催されてきた。第11回目を迎える今回も、前回同様に現地・オンライン（Zoom）のハイブリッドで開催した。当日は、学内外から66名の現地参加、44名のオンライン参加があり、その約3割を高校生が占めた。講師として、東京大学医学部附属病院感染症内科特任講師の岡本耕先生をお招きし、若手の医師・研究者・学生・高校生のキャリア形成に対する意識を高めるとともに、ライフイベントを経験しながら前向きに臨床・研究を展開する生き方への理解を深めることを目指した。

開会にあたり、南學正臣医学系研究科長・医学部長と田中栄医学部附属病院長より挨拶をいただいた。南學研究科長・学部長は、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が策定され、日本においても、様々な点から持続可能で、多様性を尊重し、受け入れる”Diversity & Inclusion”の理念に沿った新しい社会づくりが進められていることを紹介された。女性の力が平等に発揮され、受け入れられる社会づくりは全世界共通の目標であり、今回ご参加いただいている方々には、将来、より多様性を持った医学部・医学系研究科で、医学の発展のために一緒に邁進していただけることを期待されている旨を述べられた。田中病院長も、ダイバーシティが重要であると話された。現在は、キャリア形成に関して色々な情報が入手できる便利な時代であるが、多くの情報は平均値で示されることが多い。しかし、ダイバーシティの考え方は、キャリア形成というのはひとりひとりが異なるN=1であり、それで良いと考えておられる旨を述べられた。そして、後に続く岡本先生の講演もN=1の話であり、参考になる場合もならない場合もあると思われるが、自分なりの望みを描き、明日のキャリア形成につなげてほしい、と参加者にエールを送られた。

続いて、男女共同参画委員会の庄田宏文委員より演者の岡本耕先生の紹介がなされた。岡本先生は「東大病院のスーパーヒーロー」であり、岡本先生がどのようにキャリアを積んでスーパーヒーローになるに至ったか、また普段どのような生活を送っているのかなどに興味を持ちながら、講演を楽しんで聴いてほしい、と述べられた。

その後、岡本耕先生により、「No challenge no life：ワークライフバランスと学び続けること」というタイトルで講演が行われた。初めに岡本先生のご専門である感染症についての説明があった。感染症にかかわる仕事は、患者を対象とした診療と臨床研究、病原体を対象とした基礎研究、集団を対象とした疫学など、多様であるが、岡本先生は経験を積まれる過程でご自身が人や社会と関わる機会が多い仕事を好むことに気づき、現在は患者を診ながら集団レベルのことも考える、診療と臨床・疫学研究を中心に仕事をしているとのことである。そのようなキャリアに至るまでの道筋を、高校時代から遡り、東大教養学部時代、医学部時代、飯塚病院での研修時代のエピソードについて、順を追いながら紹介された。各時代において個性的で素晴らしい人と出会い、その一人一人と深い付き合いをした経験が、ご自身の医学部進学、国際保健への関心、感染症内科へのキャリアの選択に大きく影響していると述べられた。

研修医を修了後、東大病院での感染症研修を受ける中で、体系的な臨床感染症のトレーニングを受けたいという思いが芽生え、米国臨床留学を決心し、医師4～5年目に、ECFMG certificateの取得やマッチング参加の準備を開始したという。念願が叶い、岡本先生は、医師5年目の11月にハワイ大学から内科レジデントのオファーをいただくことができた。米国の臨床研修は、標準化された教育システムで、到達目標が明確であること、多方面からの評価を受けること、労働時間が制限される中で最適なパフォーマンスが求められることなどの特徴があるという。3年間のハワイ大学での研鑽の後、岡本先生は、シカゴに移られ、さらに3年間、Rush University Medical CenterとStroger Hospital of Cook Countyの2箇所感染症フェローの経験を積まれた。シカゴでは圧倒的な患者数と、多様な人種が住民であることによる多様な感染症を扱い、HIV患者も多く扱うなど、忘れられない経験を多くされた。米国臨床留学で学んだこと、得られたこととしては、臨床医、研究者、教育者としてのベースができたこと、異なる環境に飛び込むことで得られる経験が沢山できたこと、メンターを含めた良い出会いに恵まれたこと、家族との時間が増え、人生の中で仕事とは大事な一部ではあるがすべてではないということ学んだことを挙げられた。

アメリカでの臨床留学6年後に帰国し、現在は東大病院で指導医として、院内コンサルテーションや臓器移植関連の感染症外来の立ち上げ、抗菌薬の正しい使い方の研究、専門研修医の指導など、幅

広い業務に従事している。COVID-19 を感染症医として体験されて感じたことは、原因の同定・診断・治療などが HIV で 30 年かかったことが数年で進んだなど、医学・医療のスピードがとても速くなったこと、感染症を通じて世界がつながっていること、感染症は単なる医学としてだけではなく、社会的文脈で理解する必要があることなどであったと述べられた。

最後に、ワークライフバランスについてのお話をされた。個人的な経験や、帰国後の医局長としての調整役の経験を通じ、出産・育児や介護などの事情は誰にも起こりうることで、それらと仕事のバランスをとることは簡単ではないが、決して不可能ではないと考えておられるという。自分の座標軸をもち他人と比べないこと、優先順位をつけること、変化を恐れず、適応する（楽しむ）こと、自分が働きやすい環境に身を置き、働きやすい環境にしていくことが重要であると述べられた。実際に、感染症内科では、一人一人のワークライフバランスを大事にする職場を目指し、医局員の状況や考えを共有し合い、協力し合い、全員で学び、成長するように、日々励んでおられることを紹介された。また、最後のメッセージとして、うまくいかないことを恐れずチャレンジすることが大切であること、チャレンジした先に出会いがあり、それが道を拓いてくれること、医学・医療は学び続けることができるフィールドであること、自分の心の声に従い、バランスをとりながら自分の道を進んでいただきたい旨が述べられた。

質疑応答の時間には、会場やオンラインから、アメリカと日本での臨床研修の違い、岡本先生が帰国されたタイミングについてのキャリア設計上の理由などの質問が挙げられた。それらの質問に対し、岡本先生から丁寧な回答と、アドバイスや意見が述べられた。

閉会挨拶として、吉川雅英男女共同参画委員会委員長より、岡本先生の講演により、アメリカで医師として働くことの実態をよく理解できたこと、岡本先生がさまざまな方に会って経験を聞きながらキャリアを形成されてきたことに感動したこと、参加者にも是非このことを実践してほしい旨が述べられた。また、過去の高校生参加者がその後本学に入学して今回の交流会に参加してくれたことに触れ、引き続き本交流会が参加者の役に立つことへの期待を述べて、第 1 部を閉めくくった。18 時 20 分より第 2 部として、現地参加者のみによる自由歓談の時間が設けられ、高校生や医学部学生を中心に 30 名程度が残って引き続き参加した。質問は途切れることなく続き、19 時まで会は続いた。高校生や大学生が講師や教員を積極的に囲んで対話をし、充実した「交流」の時間を持つことができた。

オンライン会場のチャット欄にいただいた質問で、時間の都合で、会の中でご回答いただけなかったものへの回答を、後日、岡本先生にいただきました。ご参考になれば幸いです。

【質問】実習、初期研修など、臨床現場でこういった姿勢で何を特に学んでよかったですか？ もしくは、何を特に学ぶことで、優秀な「調整役」になれますか？

【岡本先生からの回答】

講演の中で、医局長＝調整役と申し上げましたが、実態としては、メンバーにある程度影響力・責任がある現場の管理者（中間管理職）ということになります。「優秀」な調整役、という少し難しいかもしれませんが、私のお伝えしたかった内容としては、一緒に働くメンバーの状況（「ライフ」の側面も）を理解し、自分も含めグループ全体でチーム全員が、心と体と関係性（ライフの部分）で健康を維持・増進できるように配慮・調整することが大切ではないか、ということでした。

実習、初期研修など、臨床現場でこういった姿勢で何を特に学ぶか、という点ですが、「患者さんだけでなく、医師だけでなく職種を問わず一緒に働くすべての人に対して人間的な側面（ライフも含む）も含めて理解するように努める」というのが大切な気がします。私自身まだまだその途中ですが、これまで医師としてのなかで漠然と考えていた・感じていたけど、最近まであまり意識化・言語化できていなかった部分です。

患者さんについては下記の文献を、より一般的な内容についてご興味があれば下記の書籍を読んでみてください。

・Taimur Safder. The Name of the Dog. *N Engl J Med* 2018, 379(14):1299-1301.

doi: 10.1056/NEJMp1806388.

・土屋静馬（翻訳）、塚原知樹（翻訳）

「マインドフル・プラクティス - 医療を支えるマインドフルネス-ある臨床家の実践 -」

（メディカル・サイエンス・インターナショナル（2023/4/14 発売）

III. 参加者アンケートの集計結果

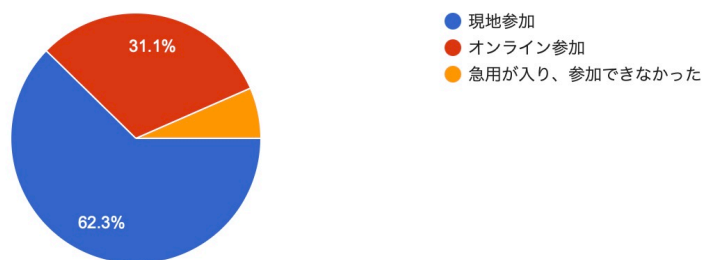
当日参加者数：110人（現地参加者66名、オンライン参加者44名（接続記録より）

アンケート回答者数：61件（回収率55.5%）

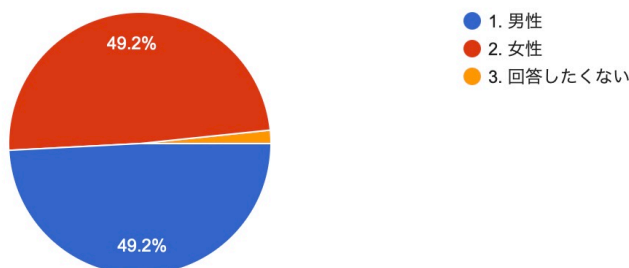
アンケート実施方法：参加登録者全員にGoogleフォーム経由の回答を依頼

<基本情報>

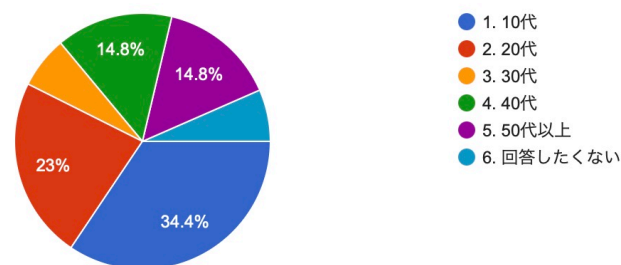
A0) 今回の「第11回医学系キャリア支援のための交流会」はハイブリッド形式で開催しました。参加いただけましたか？参加した場合、どちらの方法で参加されましたか？



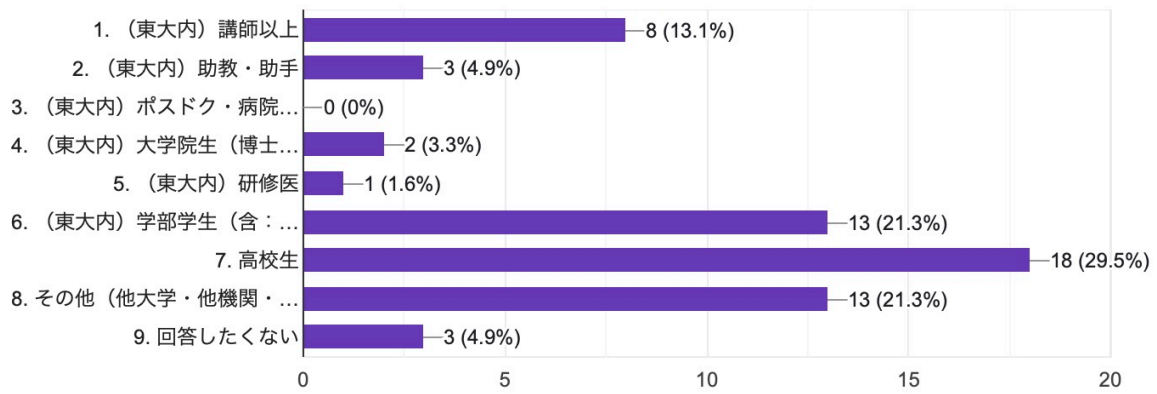
A1) 性別



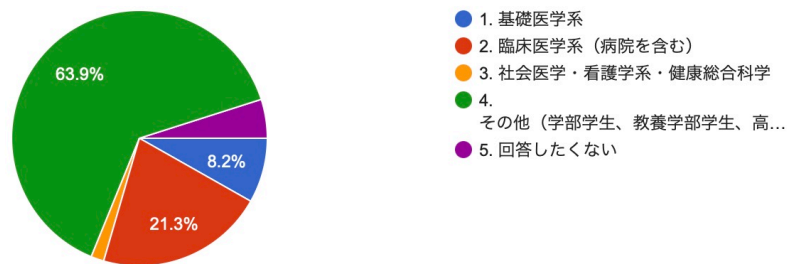
A2) 年齢



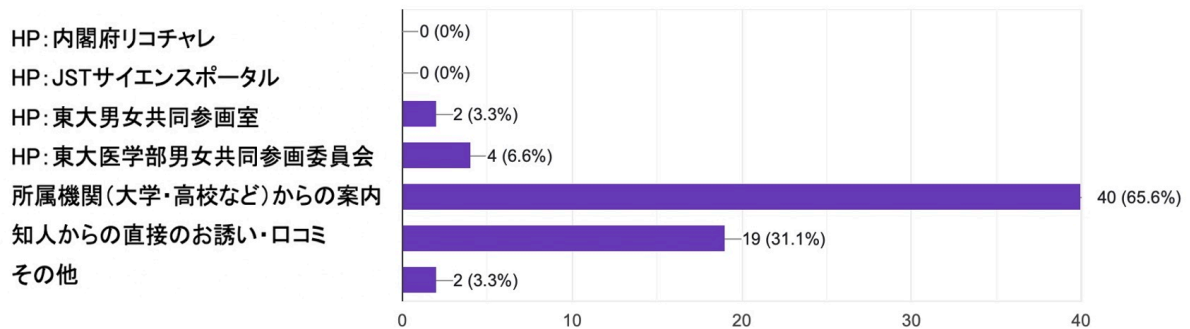
A3) 職種・職位（特任・客員を含む）



A4) 所属分野

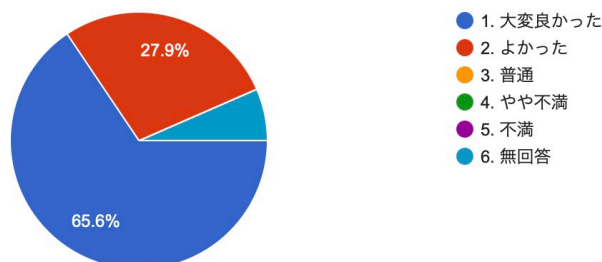


A5) この会を何でお知りになりましたか (複数回答可)



<今回の企画について>

B1) 講演 岡本耕先生” No challenge no life: ワークライフバランスと学び続けること” について



B2) 講演について、あるいは、本企画についての感想（自由回答）

- ・東大でのこのような取り組み（高校生にも参加させている）のは興味深いと感じました。京大でもできるか？と考えるきっかけになりました。
- ・高校生、医学生、若手からベテランの先生方などが一堂に介して交流できる夢のようなイベントだと思います。岡本先生の時間が足りなくなるくらいの情熱的な講演に圧倒されました。
- ・学内外の多くの方に聴講機会が得られることは素晴らしい企画だと感じました
- ・久しぶりに現地で参加でき、学生時代にタイムスリップしたような気持ちになり、明日からまた心新たに頑張っていこうと思いました。
- ・ダイバーシティはN=1ということ、という冒頭のあいさつが心に沁みました。
- ・ステージごとにカギとなる人との出会いを積極的に反映させながらご自身の独自のキャリアを築かれてきた、岡本先生の人とともに生きる力に感銘を受けました。また、N=1を大切にすることがダイバーシティだという田中先生のお話も心に残りました。医学部生や高校生との交流も楽しかったです。
- ・岡本先生のあのスタイルを形成している過去の経験や出会いを知れて良かった。私も積極的に色々な人と話しに行きたい。
- ・人との出会いを活かして貪欲に学んできた人生を知ることができて良かったです。
- ・岡本先生ご自身のこれまでのキャリアパスについてお話ししていただき、非常に興味深かった。臨床留学には個人的に興味があるため、具体的なキャリアの例を見せていただけて、とてもためになった。ありがとうございました。
- ・米国留学についての話を聞く機会は少ないので、参考になった。
- ・医学系といっても働き方の形は非常に柔軟で、さまざまな経験の中で自分に合ったものを見つけたいのだと知ることができ、医学関係の職種により惹かれました。海外留学についてのお話も学ぶことが多く、非常に充実した時間でした！
- ・感染症について語る先生の姿しか拝見したことがなかったので、先生のこれまでの人生やワークライフバランスについての考えをお聞きすることができ、遠い存在のように思える先生方でもいろいろな挫折の経験があって悩み様々な方に支えられながら今に至るのだとわかって親近感が湧きました。自分もめげずに将来を不安に思いすぎずに頑張りたいと思いました。
- ・海外キャリアを目指したきっかけ、また、諦めることなくチャレンジされた岡本先生の勇気と行動力に脱帽でした。ワークライフバランスのお話をする時間が足りなくなってしまう、かなり駆け足になってしまったのが残念でしたが、重要なメッセージはしっかり伝わってきました。
- ・岡本先生からの熱いメッセージは、何のためにこの仕事についたのかなど基本的なことを忘れかけていた自分にとって、非常に新鮮で、印象深いものとなりました。
- ・人生やキャリアの形成過程における具体的な考えなどを聞いて参考になった。
- ・岡本先生の人柄が溢れる講演でした。
- ・実際にされた経験を自分の言葉で話して頂いたのが非常に貴重な機会になりました。
- ・話を聞いてモチベーションが出てきた。
- ・岡本先生の話がわかりやすかった。
- ・実際に働いていらっしゃる先生が、どのような考えを持ち、キャリアを辿り、家庭との両立を考えていらっしゃるのか直接話を聞くことができよかったです。さまざまな出会いが影響していること、自分の座標軸をもち、他人と比べるのではなく自分と家族を考えて行動されていることがとても印

- 象に残りました。また、受験生なので、大学生の方々と話す機会を頂けて大変刺激になりました。
- ・まさに自分が聞きたい内容で、とても充実した時間でした。ありがとうございました。
 - ・やる気が出る講演をありがとうございました
 - ・実際に渡米して医師のキャリアを積んだ先生の、具体的なお考えや経験を学ぶことができ、自身の大学入学後のキャリア形成の具体的なイメージを掴むことができました。
 - ・単に医学部の情報だけでなく、キャリア形成やワークライフバランスについてもお話いただき、高校生の参考になったと感じた。
 - ・高校生からの経過をお話頂くことで、高校生や現役の若い方々も親近感がわいたのではないかと感じます。また、ワークライフバランスという意味では、余暇を削って励まれている印象でもありました。
 - ・岡本先生の高校生の頃からの話を聞かせていただいて親近感が湧きました。感染症内科は興味を持っていた科だっただけにおどろきました。また尊敬する先生方や先輩方とお話できる贅沢な機会であり、大変勉強になりました。来年以降もぜひよろしくお願いいたします。
 - ・アメリカと日本の医療を両方経験した先生のお話を伺えて、アメリカの医療体制や研修過程がどうなっているのかがよくわかり、将来への視野が広がったと思います。また、「健康な身体と心があってこそその仕事」と言う言葉を聞いて、受験勉強において自分の健康を二の次にしてしまうことがよくあり、自分の体調管理をできてこそ本当の受験勉強ができるのだと痛感しました。
 - ・今後進路を選択する上で大変参考になります。ありがとうございました。
 - ・さまざまなワークライフバランスを考えさせられました。
 - ・岡本先生のお話は大変参考になりました。第二部の交流会では最初はどうも交流ができるかどうか、心配もありましたが、司会をされていた女性の先生が優しく話しかけてくださいました。女性の医師の先生のお話を聞く機会は普段は全くないので貴重な経験で、育児経験もおありで私たち高校生の生活のこともよく理解されていたので、親近感が湧き、大いに励まされました。さらに東大医学部の学生さんのこともご紹介いただき、受験のこと、医学部での生活のことを直接聞くことができました。
 - ・講演後に講師の先生と個人的にお話しした際に聞いたことがとても参考になりました。これからも学び続けていきたいと思えます。ありがとうございました。
 - ・現役生、大学の先生とお話をすることができて、大学生の生活がよくわかりました。また、大学受験のことも教えていただきました。自分が興味を持っている研究、基礎医学系の知識を深めることができました。東大医学部の方と直接お話しすることができて、とても新鮮でした。貴重な体験をすることができました。どうもありがとうございました。
 - ・ぜひまた参加したいです。

改善の要望：

- ・もう少しポイントを絞ってお話し頂けると、メッセージが伝わりやすかったのではないかと思います。
- ・良い講演内容であっただけに、話は時間内にまとめて、質問や交流会の時間をしっかり確保できるとよかったです。
- ・講演では、思い出話がやや長すぎたように感じられました。後半のワークライフバランスの話によりお時間を割き、職場ではスーパーヒーローでいらっしゃる先生が、生活面ではどのようなご苦労をされ、どのように工夫して生活されているのかを、もう少しエピソードを含めて語っていただくと、より親近感が湧いたと思います。

- ・やや、ご専門のお話が多めで、もう少し、キャリア形成、生活状況、子育て、家事育児のお話が欲しかったです。
- ・ワークライフバランスにより重点を置かれると、さらによかったと思います。
- ・意見交換の時間は講師の先生が満遍なく会場を回れるようにグループ化していただき良かったです。

B3) 今後もこのような企画を続けて欲しいと思われませんか。



B4) 交流会の内容や今後の男女共同参画委員会の活動へのご意見ご要望（自由回答）

交流会について：

- ・学部長、病院長の先生が来られてご挨拶されているのに驚きました。本気度を感じました。京大でも似たことをするとしても別方向になると思いますが、何かやりたいなと考えました。
- ・この行事を10年以上前に立ち上げ、長年継続されてきたご努力に敬意を表します（ホームページで過去の行事も全て拝見しました）。大変よくオーガナイズされており、運営面でも参考になりました。
- ・コロナ明けにも関わらずの大盛会のご様子、素晴らしかったです。
- ・このような、様々な世代がともに意見を交換し交流できる場を設けてくださり、本当にありがとうございました。今後の勉学の励みになりました。
- ・高校生が多くてよかったです。
- ・医学のことを知り、医師の生活のことを知る貴重な機会となりました。有難うございました。
- ・現役大学生や医師の方々との交流の時間を増やしてほしいです。
- ・会にお招きいただき、ありがとうございました。
- ・企画・案内をありがとうございました。ぜひ継続していただけると幸いです。
- ・参加させていただき、ありがとうございました。
- ・卒業後もいつでも戻ってきて初心を思い出すことができる故郷のような場所として、今後も存続し続けて欲しいと願っています。
- ・共働きが当たり前になっていく世の中で、私自身は少し世代が前で、大学院を修了していても、研究活動と子育てを両立できずに中途半端な研究事務としてしかポジションがない状態ですが、今後の方々は支援を受けながら、キャリアを積んでいくためには、どのようなサポートがあるかをより具体的に考え、実践していける世の中になればいいなと思います。
- ・男女共同参画を語る人の多くは、その本当の壁にぶち当たっていない、という問題。本当に壁にぶち当たっている人はそもそも語る場に参加することすら、解決の糸口を見つけることすらできない。というのが3児をもつ親の意見です。（本会との関連性は少ないですが）

今後の交流会に関するご要望：

- ・交流会で集中しないように、若手の場合は演者が複数いるとよいかと思いました。
- ・僕が見逃していただけなのかもしれませんが、講演者の名前を事前に出していただけたらありがたかったです。

男女共同参画委員会の活動について：

- ・私達ひとりひとりが真の多様性について気づき理解できるような活動を続けていただきたく存じます。
- ・大学生時代から幹事の先生にお世話になった立場として、この交流会や委員会の活動を立ち上げ、ずっと継続されてきたご苦労は、並大抵のものではないと拝察しております。心より感謝しています。
- ・これからもよろしく願いいたします。

貴重なご意見を多数いただき、大変有難うございました。
本アンケートの結果を、今後の行事の企画・運営、および、男女共同参画委員会の活動に活かしていきたいと思えます。

今後も、当委員会の活動にご指導とご協力をよろしくお願い申し上げます。

東京大学大学院医学系研究科・医学部
男女共同参画委員会